

Utility Model Publication Heisei 4-41864

Nipple comprises a nipple body 1 of rubber-like elastic material and an inner nipple portion 2 of rubber-like material softer than the nipple body material and joining to the nipple body. A passageway 10, 12 is formed in the inner nipple portion and in communication with a suction aperture in the nipple body at its tip. A vent 11 is at its one end in communication with the passageway and has at the other end an opening formed in a flange of the inner nipple portion.

⑪実用新案公報 (Y2)

平4-41864

⑬Int.Cl.⁵

A 61 J 11/02

識別記号

庁内整理番号

A 7720-4C

⑫⑭公告 平成4年(1992)10月1日

請求項の数 2 (全3頁)

⑮考案の名称 哺乳器用乳首

⑯実願 昭63-1705

⑯公開 平1-107344

⑰出願 昭63(1988)1月12日

⑰平1(1989)7月19日

⑮考案者 飯田光雄 東京都千代田区神田富山町5番地1 ビジョン株式会社内
 ⑯考案者 青木恵子 東京都千代田区神田富山町5番地1 ビジョン株式会社内
 ⑰出願人 ビジョン株式会社 東京都千代田区神田富山町5番地1
 ⑯代理人 弁理士 小田治親
 審査官 津野孝
 ⑮参考文献 特開 昭63-24948 (JP, A) 実開 昭57-81839 (JP, U)
 実公 昭36-15480 (JP, Y1)

1

2

⑯実用新案登録請求の範囲

(1) ゴム状弾性体からなる乳首本体の内側に、当該乳首本体より軟らかいゴム状弾性体からなる乳首内装材を全面で接合して一体に設け、この乳首内装材に、前記乳首本体の先端部に設けた吸乳孔に連通する連通路を形成すると共に、この連通路に一端を開口し且つ他端を乳首本体の鈍部に開口した空気抜孔を形成したことを特徴とする哺乳器用乳首。

(2) 前記ゴム状弾性体はシリコンゴムであることを特徴とする請求項第1項記載の哺乳器用乳首。

考案の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本考案は、哺乳器用の乳首に関し、特に肉感を有する哺乳器用乳首に係る。

〔従来の技術とその問題点〕

従来の、この種の哺乳器用乳首は、第4図に示すように、全体に渡って所定の肉厚により形成された乳首本体1からなり、その乳首本体1は特殊人造ゴム或は天然ゴム等で形成されていて、小さな外力によつても容易に弹性変形し得るように構成している。

そのため、哺乳器に装着してミルクを吸入する際に、上記乳首本体Aは乳児が口に含んだだけで

弹性変形してしまい、母親の乳房による授乳感覚と大きく異なるという問題点があつた。

本考案は、かかる従来の問題点に鑑みてなされたものであり、乳首本体の内側に当該乳首本体よりも軟らかい乳首内装材を設けることにより、母親の乳房での授乳に近い状態で授乳させができる肉感をもつてゐると共に、製造が容易であつてミルクの吸乳をスムースに行うことができる哺乳器用乳首を提供することを目的としている。

⑯【問題点を解決するための手段】

上記目的を達成するため、本考案は、ゴム状弾性体からなる乳首本体の内側に、当該乳首本体より軟らかいゴム状弾性体からなる乳首内装材を全面で接合して一体に設け、この乳首内装材に、前記乳首本体の先端部に設けた吸乳孔に連通する連通路を形成すると共に、この連通路に一端を開口し且つ他端を乳首本体の鈍部に開口した空気抜孔を形成したことを特徴としている。

⑯【作用】

而して、本考案では、乳首本体の内側に乳首内装材を一体に設けているため、乳首内装材の分だけ弹性が高くなり、これにより肉感を感じることができるようにになる。そして、乳首内装材には吸乳孔に連通する連通路と、この連通路に一端が開口し且つ他端が鈍部に開口する空気抜孔とを形成

した、あたかも母親の乳房での授乳に近い状態を実現することができ、乳児の授乳を促進することができる。

[実施例]

次に、本考案の実施例について図面を参照して説明する。

第1図は、本考案の一実施例を示す縦断面図である。

まず、構成を説明すると、図中1は乳首本体、2は乳首内装材である。

乳首本体1は、半球形をなす胴部3と、その中央に突出形成した円筒形をなす首部4と、この首部4の先端に設けた球形をなす乳頭部5と、胴部3の開口側に設けた半径方向側に延びる鰐部6とからなり、これらはゴム状弾性体の一具体例を示すシリコンゴムによって一体に形成している。胴部3及び鰐部6の肉厚は厚く、また、首部4及び乳頭部5の肉厚は薄く形成している。そして、乳頭部5の中央には吸乳孔7を穿設しているとともに、胴部3の外側には、鰐部6との間に所定の隙間をあけて周凸部8を設けることによつて周溝9を形成している。

乳首内装材2は、上記乳首本体1よりも軟らかいシリコンゴムかせなり、乳首本体1の内側の凹部全体を埋めるようにして当該乳首本体1と加硫接着等の接合手段によつて一体に形成している。そして、乳首内装材2の中央には、前記吸乳孔7に連通する内径を一定にした連通路10を設け、また、この連通路10に一端が連通し且つ他端が鰐部6の外周面に開口する空気抜孔11を設けている。

次に、本実施例の作用について説明する。

本実施例に係る哺乳器用乳首は、従来のものと同様に、図示しない締付キャップを用いて哺乳瓶に装着して使用する。

ミルクを充填した哺乳瓶に締付キャップを緊締した状態で授乳させると、乳児の吸飲力によつて哺乳瓶内のミルクが連通路10を介して吸乳孔7から当該乳児に吸飲される。

この際、シリコンゴムで形成した乳首本体1の内側にはそれよりも軟らかいシリコンゴムで形成した乳首内装材2を一体に設けているため、全体の弾性が高くなつて弾性変形し難くなつてゐる。そのため、これを乳児が口に含んだ場合、当該乳

児には乳首が肉感的に感じられることとなり、あたかも母親の乳房での授乳に近い状態で授乳を受けることができる。

なお、吸乳孔7を大きく開けた場合、従来の乳首では転倒した際に中のミルクが漏れ出することになるが、本実施例のように吸乳孔7に連続して連通路10を形成すると、通路抵抗によつてミルクの流出が阻止されるため、ミルクを充填した状態で哺乳瓶を倒しても吸乳孔7からミルクが漏れ出ることがない。

また、乳首本体1及び乳首内装材2には、一端を連通路10に連通し且つ他端を鰐部6の外周面に開口した空気抜孔11を設けているため、吸乳時に連通路10が詰まつてミルクが出なくなることがない。

第2図及び第3図には、本考案の第2の実施例を示す。

本実施例は、連通路12を鰐部6側の径を大きくした円錐形通路とするとともに、吸乳孔13をスリーカットに連続して各切目端に液漏れのしない透孔を穿設して形成したものである。他の構成は上記実施例と同様である。

本実施例の場合には、連通路12が円錐形をなしているため、ミルクの流量を増大させることができるとともに、吸乳孔13が閉じているため、哺乳瓶を倒しても吸乳孔13からミルクが漏れ出ることがない。

なお、上記実施例では、ゴム状弾性体としてシリコンゴムを適用した例について説明したが、本考案はこれに限定されるものではなく、他の化学構造の高分子重合体は勿論のこと、天然ゴム等の各種の材質のものを適用することができる。

[考案の効果]

以上説明してきたように、本考案によれば、乳首本体の内側にそれよりも軟らかい乳首内装材を全面で接合して一体に設けると共に、吸乳孔に連通する連通路と、この連通路を鰐部に開口させる空気抜孔とを形成する構造としたため、全体に肉感を持たせることができ、従つて、あたかも母親の乳房での授乳に近い状態で授乳することができると共に、乳首全体を所定硬度に容易に設定することができ、製造が容易であつて、しかもミルクの吸乳をスムースに行うことができる哺乳器用乳首を提供することができるという効果が得られ

る。

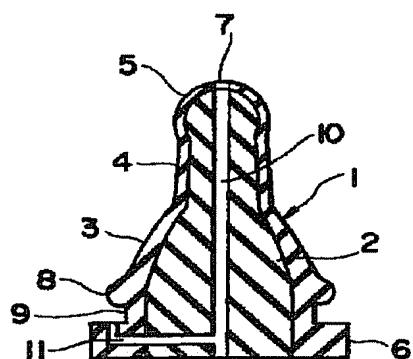
図面の簡単な説明

第1図は本考案の一実施例を示す縦断面図、第2図は本考案の他の実施例を示す平面図、第3図は第2図のⅢ-Ⅲ線断面図、第4図は従来の哺乳

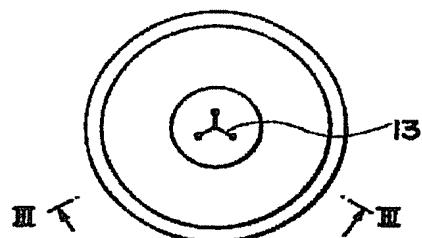
器用乳首を示す縦断面図である。

1……乳首本体、2……乳首内装材、7, 13
……吸乳孔、10, 12……連通路、11……空
気抜孔。

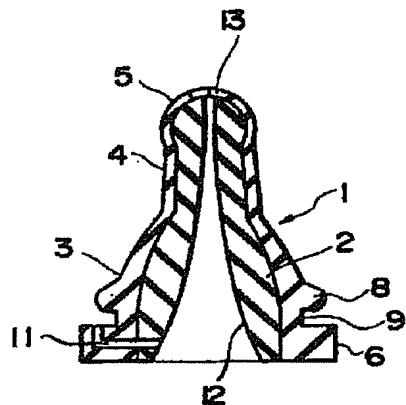
第1図



第2図



第3図



第4図

